中学生の潜在連想基準の作成と活用

「自然」「環境」「長野」に対する潜在意識を事例として

○内田 昭利

(長野市立犀陵中学校)

キーワード：潜在連想基準，中学生，エビデンス

Creation and utilization Implicit Association Criteria for junior high school students
Akitoshi Uchida

(Sairyo Junior High School)

Key Words: Implicit Association Criteria, Junior High School Students, Evidence

1 目的

中学生の潜在意識に関する最新研究(Uchida & Mori, 2018)では、数学に対する潜在意識は肯定的であるのに調査では「数学が嫌い」と回答する「偽装数学嫌い」の生徒に「心の中では数学を前向きにとらえている」と伝えることで、1年後には多くの生徒が数学の成績を改善することを明らかにした。そこで、本研究では、教育現場で潜在意識調査をより使いやすくするために潜在意識の「ものさし」となる基準の作成を試みる。集団式潜在連想テスト(Mori, Uchida, & Imada, 2008)の評価項目である「平和・戦争」「幸福・不幸」「希望・絶望」について潜在意識を測定し、潜在連想基準(Implicit Association Criteria; IAC)を作成する。その上で、「自然」「環境」「長野」に対する潜在意識をIACに当てはめることで、教育現場での活用の可能性について検討していく。

2 方法

1. 研究参加者及び実施時期 長野県N市立S中学校の生徒に研究の主旨を説明し、参加を求めた。基準値の測定は2015年9月に行い、268名(男子138名、女子130名)が参加した。学年の内訳は、1年男子48名、女子41名、2年男子45名、女子45名、3年男子45名、女子44名である。比較値の測定は2018年12月に行い、186名(男子93名、女子93名)が参加した。学年の内訳は、1年男子32名、女子33名、2年男子32名、女子33名、3年男子29名、女子27名である。

2. 潜在連想テスト 集団式潜在連想テストを用いて、基準値及び比較値を測定した。それぞれの項目の遂行数に基づいて、肯定課題遂行数から否定課題遂行数を引き、全課題遂行数で除した値を100倍して潜在連想比率を算出し、潜在意識の指標とした。また、95%の信頼区間から外れたデータは分析から除いた。

3 結果

比較値の「自然」「環境」「長野」のそれぞれの潜在意識は肯定的であった。それぞれの指標について、3(学年)×2(性別)の分散分析を行った結果、「環境」「長野」における、学年の主効果のみが有意となった($F_{(2,172)} = 3.50, p = 0.03$, $F_{(2,169)} = 3.50, p = 0.03$)。そこで、学年ごとのIACを作成し、比較値も組み入れた。特に特徴的な1年生と3年生を図示する(Fig.1・2)。

4 考察

豊かな自然の中で行われる学校行事や環境教育、進路指導によって「環境」「長野」に対する潜在意識が高まり、「自然」に対する潜在意識が高いレベルで保たれていると考えることができる。また、IACの中でも「戦争」に対する潜在意識が大きく変化していることから、平和教育の効果が考えられる。しかし、それらを検証するには、教育活動の前後で潜在意識がどのように変化したのかを測定する必要がある。今後、理論と実践を往還する中で、エビデンスを確立する1つ

の方法として潜在意識の変化に着目していく必要もあるのではないだろうか。

また、「幸福」「不幸」に対する潜在意識が学年進行に伴い大きな変化をみせている。更に、中学3年生の「長野」は基準値を超える潜在意識を示した。これらのことから、中学生が潜在意識レベルで何を大事にしているのか今後の研究課題としていきたい。

謝辞

本研究は、一般財団法人長野県科学振興会発明・研究費助成金による研究成果である。研究を許可くださった学校長をはじめ関係者の皆さま、調査に協力くださった生徒の皆さん、調査をしていただいた先生方、大変ありがとうございました。

引用文献

- Mori, K., Uchida, A., & Imada, R. (2008). A paper-format group performance test for measuring the implicit association of target concepts. *Behavior Research Methods*, 40(2), 546-555.
Uchida, A., & Mori, K. (2018). Detection and Treatment of Fake Math-Dislikes among Japanese Junior High School Students. *International Journal of Science and Mathematics Education*, 16(6), 1115-1126.

Fig. 1 中学1年生のIACと比較値

Fig. 2 中学3年生のIACと比較値